

「桜の樹」ニュースレター vol 27

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」 2023.10



ミニオン撮影

「ありがとう、すーみん！」 さくら

「桜の樹」ニュースレター vol 20～24 に寄稿してくださっていた大阪の宮里すみ子さん。

私とはInstagramを通じて知り合い、すい臓がんという病を得てからニュースレターに病気のこと、現在のお気持ち、ご家族、お墓のことを、素直に書いて下さっていました。もともと本をたくさん読み、皆さんに本の感想などを紹介されたりしていたすーみんなので、この機会を喜んで下さってもいいました。

そして、読んでいる私は、そのすーみんに影響を受け、素直に自分の置かれている状況を表現していきたいと思うようになりました。また、このころより、ニュースレターに常連になってくださる寄稿者の方もできたり、その記事を励みに思っただけだったり、新しい出会いと感じて下さる方からの感想もいただけるようになってきました。

9月のはじめ、すーみんはご逝去されましたが、すーみんが教えて下さったように、これからは、私もこの「紙面上のカフェ」参加者として、素直に自分を表現していけたらと思います。ありがとう。すーみん！

ご冥福を
お祈り
いたします。



ミニオン撮影



「みんな空の下」 岡ちゃん

歌手の絢香さんの歌、みんな空の下を紹介します。何度も読み返したくなる心に響く歌詞です。

涙流さない どんなに辛くても
誰にも負けない強さ持つるのは
まわりを悲しませないあなたの優しさ
見つめる瞳言葉なくても 伝わるあなたの想い
負けないよって 頑張るよって 優しく笑うんだ
あなたの笑顔は 誰よりも輝き
くもり空まで晴れにしてしまう
何度も高い壁乗り越えたから 何も怖くない
ひとりじゃないよ みんな空の下
言い返せなくて悔しかったよね
ひとりで泣いてた日々も“今”につながって
大きな花を咲かせようとしている
小さな胸にしまい込んでいる 空に似た大きな心
泣かないでって 大丈夫って
包み込むように笑うんだ
星が顔を出し あなたが眠る頃 同じ空の下
願う人がいる
明日もあなたが笑ってられますようにって
見守ってるよ 遠い場所から みんな空の下
柔らかな風を吹かせて 街はそっと 色づいてく
あなたの笑顔は誰よりも輝き
くもり空まで晴れにしてしまう
何度も高い壁 乗り越えたから 何も怖くない
ひとりじゃないよ みんな空の下

作詞 絢香

どのような状況にあっても、見守る人はいる。いつだってひとりじゃない。みんな空の下にいたるから。誰かを応援したい気持ちと、私もきっと誰かに応援されていると思い、あたたかな気持ちになりました。



「ひまわりの森で 出会った人々」 ハル

桜の街路樹が続く道の終点に小さな森の公園がある。

森の中には 遊具があり、子供たちが遊んでいる。散策用の小道を抜けていくと突き当たりにひっそりと見えるのが「ひまわり園」だ。茶色い煉瓦でできた建物の周りには 小さなひまわりたちが囲むように咲いている。ここには 毎日、10人ほどの大人の障害者が通っている。部品を組み立てる仕事をしたり、散歩をしたり、トランプで遊んだり 職員と共に自由に過ごす場所だ。

私は 病気になってから週に一度、ここでボランティアをしている。ある日、帰りの会が終わると 向こうのほうから剛くんに「高橋さん 今日ありがとうございます」と声をかけられた。何のありがたいのかわからずに「え？ 何？」と聞き返すとモゴモゴとよくわからない。ありがたいの意味が知りたくて何度も聞くと お昼ご飯の時に食べきれなかったミートボールを一つあげたことへのお礼だった。「どういたしまして」3時間後のお礼に拍手抜けしながらもあったかい気持ちが湧いた。こちらでは、ダウン症のまゆみさんが私に向かってとても小さな声で何か話している。

「あさ、焼肉」「小林、病院 明日」など 2語文か3語文の言葉は大幅にこちらがイメージを働かさないと会話が進まない。「そうかあ 明日、小林さんと病院に行くんだね」「え？朝から焼肉食べてきたの？すごいねえ」と答えると 満足そうに彼女がうなづく。何か思いついたのか「お兄ちゃん ちんちん」と言った。

咄嗟に 何か面白い話をしているんだなとわかり、私が笑うと 彼女も「ニコッ」とする。その顔がかわいい。省吾くんは 先天性の小児麻痺だろうか独特のリズムをとるような歩き方をする。

こちらの話すことの意味はわかっているようだが時々奇声を発する以外の自発的な言葉はない。口をタンタンと鳴らすのがくせだ。彼とも何かコミュニケーションを取りたいが 会話することができないので私も口をタンタン鳴らして 2人で廊下を散歩するようになった。今日は 突然に彼が私のところへ向かって来た。そして何も言わずに私の腕をガシッと強い力で掴む。数秒、その目を見つめると「一緒に散歩に行こう」と言ってるみたいなのだ。青みのある澄んだ黒い瞳が 私の心の中を見ているようで 吸い込まれるような気持ちになる。

このひまわり園には キラキラとした人と人の関わりがある。私の気持ちと相手の気持ちが行ったり来たり。

彼や彼女の本当の気持ちはわからないけれど 近づこうとすることはできる。それは必要なことであり私の人生を豊かにしてくれる。

昨日読んだ本の中に「明日、死ぬように今日を生きる。永遠に生きるように学ぶ」という言葉があった。ガンジーの言葉だそうだ。

時代は変わっても人の気持ちは何も変わらないのだと思う。

ひまわり園に この言葉のヒントがあるように思えるのだ。

「都会の中の静けさ」 ミニオン

都会の朝は早い。

ビルの壁に足音がはねかえり コツコツと。お仕事に。通学に。その中に小さく小鳥のさえずりも聞こえます。

そして夜帰宅の時間 マンション。一戸建て。都会は カギを閉めてしまえば。お隣さん ご近所と挨拶をしない それがマナーとさえなったりします。また最近では お一人様遊びが。自分の世界を楽しむ個を大切に。一人カラオケ。お一人様の食事。など。

けれども 人が賑わう秋祭り。びいひゃら。ドンドン。地元の人同士が祭りの準備でザワザワ。全然知らない人達。そしてたまにしか会わない人の再会。最近では子供神輿のカツギ手がない。子供不足で小学校から地域ごとに課外授業として参加してもらう。「わっしょい わっしょい」親子さんがついてカメラやビデオを持って賑やかになります。

帰りにお菓子をもらって

子どもたちはご機嫌。

都会は楽しみを見つければ

楽しい住みやすい

街なの

です。



ミニオン撮影



ミニオン撮影



編集後記 うらちゃん

山本さんがしていた作業の一部を今回初めて担わせていただいて、文章や写真を送ってくださる皆様の生活の一端を感じることができとても嬉しかったです。「紙面上のカフェ」は皆様の日々の大切な時間と感情の共有ですね。どなたでも、どんなことでもお寄せいただけたら嬉しい限りです。下記の連絡先に送ってください。LINE でも構いません。

編集：岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」浦川慶子

sugamocafe.sakura@gmail.com

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来

